

STEP-UP

平成28年度 第2号 3月
大田区幼児教育センター
幼児教育担当 (5744) 1618

今年度も残すところわずかとなりました。園児たちは、小学校との交流会などを通して就学への期待に胸を膨らませ、1年生は、入学後1年間の成長を実感する時期を迎えていることと思います。就学や進級に向けて、保・幼・小・中の連携が図られることによって、より滑らかな接続が実現できることでしょう。

今号では、幼児教育センターの事業から、「生活規範意識向上講座」と「小学校と保育園・幼稚園の交流活動」についてお知らせします。

生活規範意識向上講座

例年、大田区を4地区に分け、「子どもの規範意識を育てるには」というテーマにそって「生活規範意識向上講座」を開催しています。

前半は、健全育成委員会の校長先生方から講話をお聞きし、後半の協議会では、「リオオリンピック・パラリンピックでは、選手達の活躍とともに、‘チームの一員として役割を果たそうとする姿’や、‘対戦相手を讃える姿’も感動的でした。このような姿勢はどのようにして培われるのだと思いますか」というテーマのもと、保育園・幼稚園、小学校・中学校の先生、児童館等の関係機関の職員、保護者に、それぞれの立場で意見交換を行っていただきました。

<調布地区>

日本、アメリカ、韓国、中国の15歳を対象にした「自分に対する意識調査」では、日本は4か国の中で一番「自分に関する意識が低い」という結果があり、自己肯定感をどう育てていくかという課題がみえた。

<大森地区>

教育における愛情とは、「これ以上はダメ」という限界（上限）を大人が決めることである。
叱るべき所と共感的に励ます態度をもって、子どもに接する必要がある。

校長先生方の講話より

<池上地区>

自己評価が培われる過程⇒【生きていく土台づくり】は0～3歳の時期、躰【生活習慣・対人関係ルール・子どもの発達にあわせること】は4～6歳の時期、勉強【好奇心旺盛は小学校入学時期】は7歳頃の時期～といわれているので、子どもの発達に応じて、道徳の授業における三原則「聞くこと・待つこと・認めること」を生かしていきたい。

<蒲田地区>

- ①子どもに身に付けてほしい力は、自分自身を高める力である。
- ②叱るときはちゃんと叱る。
- ③発言を褒める。
- ④子どもは、大人になるために学校に来ている。失敗しても当たり前と捉えることが大事である。

幼い子であっても『いけないことはいけない』と、「伝えていくこと」「考えさせていくこと」が重要だと感じました。



協議会での意見交換より

幼児期の姿を踏まえた上で、1年生が主体的に何が出来るのかを見つけていくことが大切ではないかと思いました。



結果がすべてではないし、練習をしている過程でできなくても、「努力している過程でできたこと」「周りが褒めてくれたこと」などの経験が大事であると改めて思いました。

- 人間形成・人間関係を築くためには、
- ①成長の段階を追ってのアプローチの仕方と声かけ
 - ②見守り
 - ③子ども自身の経験、であると分かりました。

今回のテーマ「相手を讃えることができる気持ち」は、友だちとの関わりの中で、他者と自己との違いに気付いて、葛藤したり、相手の気持ちを受け入れたりするなどの体験により育まれます。この時期、子どもの思いや自己調整しようとする力を認め、支える大人の存在は重要です。大人との信頼関係の中で培われた約束やルールを守ろうとする意識や思いやりの気持ちは、やがて“自分は大切にされている”、“所属する集団の中で役に立っている”と感じる「自己有用感」へと繋がっていきます。

子どもの「自己有用感」を高め相手を讃える（認める）気持ち、豊かな心を育ていけるよう、これからも保・幼・小・中、地域の連携を大切にしていきたいと思います。

小学1年生と 認証保育所・私立保育園・私立幼稚園・区立保育園との交流

【今回は1月に行われた、小学校と保育園・幼稚園との交流活動をご紹介します。】

「あそぼうかい」の活動を通して

3学期になり、1年生は意欲的に学習に取り組み、仲間たちと協力しながら学校生活を楽しむ姿がみられるようになりました。

そして、「あそぼうかい」の中で“新1年生”を迎える先輩として幼稚園・保育園の子どもたちに「学校は楽しいところ」と伝えたいと計画を立てました。



生活科の授業で話し合い「おみせやさん」をやる事が決まりました。見通しがもてるように、教師が予定を話していきます。

交流会までの取り組み

学級の仲間と「おみせやさんごっこ」で交流することが決まると班ごとに分かれて話し合いをしました。準備や製作でリーダーを中心に順調に進む班と、意見が対立する班もありました。担任からの「やりたばかりじゃ、進まないね。誰のためにやるんだっけ？」という指導で、はっとして静まりました。

「看板は大きい文字で書く」「案内係、説明係を決める」など、年長児が分かるようにと多くの工夫がなされていました。

準備ができたのでお店役とお客役になってリハーサルです。



はじめのかい



体育館で児童と園児が対面。1年生は、歓迎の気持ちを挨拶の中で丁寧に伝えました。

さあ!!本番

開店準備



リハーサルをしていたので友だちと協力して行う準備も早い!!

しょうがっこうクイズ



「○・×クイズ」⇒「パソコン教室は3階にある？」の質問に園児が考えて手を挙げ答えています。

たのしくじびき



くじ引きで当たった商品を選んでいた園児に「これでいいですか？」と聞いています。

ころがしや



新聞紙で作った棒と色画用紙のリングを使った遊び方を教えています。「棒に通すこともできるよ」と説明しています。

保育園、幼稚園、小学校の連携・交流活動を通して

1年生は、1年を通じて自分たちの成長を実感し、自信がもてるようになったようです。交流活動の準備をしながら、お互いに「出来た？」と確認し合ったり、クラス全体で力を合わせたりしている姿には「楽しんでもらいたい!」という気持ちが表れていました。そして交流活動当日、1年生は遊び方を優しく教えたり、リードしながら一緒に歌ったりする中で年上としての自覚を高めていました。また、園児たちは「おみせやさんごっこ」で楽しく遊ぶことにより、人との関わりの楽しさや、小学校生活への期待がさらに膨らんだようです。

今回の交流活動を通して、積極的に園児に関わる1年生の姿と、目を輝かせて活動に参加する幼稚園・保育園児の姿がみられ、互いに影響を受けながら成長していくことの大切さを捉えることができました。